

## 第 33 回第二言語習得研究会(JASLA)

### 全国大会研究発表の募集

下記の要領で、標記研究会 全国大会における研究発表を募集します。ふるってご応募ください。

1. 日 時： 2022 年 12 月 10 日（土）・11 日（日）（ただし研究発表は 10 日（土）のみに行われます）
2. 会 場： オンライン実施（詳細は JASLA の web ページなどで別途お知らせいたします）
3. 発表形態：
  - (a) 口頭発表（オンライン上で発表 20 分，質疑応答 10 分の計 30 分）
  - (b) ポスター発表（ポスターをネット上に公開し，発表者・参加者はチャットツールを用いて議論）
4. テーマ：第二言語，外国語としての日本語の習得研究（研究対象として，必ず日本語を含んでいること。日本語以外の言語のみを対象とした習得研究は扱いません）
5. 応募資格：資格は問わない  
本研究会は会員組織ではありませんので，だれでも応募できます。  
ただし，発表内容は未発表のものに限り，第 1 発表者としての応募は 1 件のみとします。他学会等への二重投稿，剽窃等の研究倫理に反する不適切な行為が判明した場合には，採択通知後であっても応募を無効とします。
6. 応募期限：2022 年 8 月 10 日（水）（日本時間 23:59）（必着）
7. 採択通知：2022 年 9 月末日までにメールで通知  
採択された方には 10 月下旬に予稿集原稿を提出していただきます（書式，頁数等は採択通知時に連絡）。
8. 応募方法：  
発表応募は，メールにより受け付けています。下記(1)～(3)に沿って発表応募のメールを送信してください。  
(1)メールの件名は「2022 発表応募○○○○○○○」。○○○○○○○には，発表題目冒頭の 7 文字を入れる。  
例) 発表題目「漢字能力発達のプロセス」→メールの件名「2022 発表応募漢字能力発達の」  
(2)メール本文には以下の項目をもれなく記載する。
  - 発表題目
  - 発表者名・所属（共同発表者がいる場合，全員の名前と所属）
  - 口頭発表・ポスター発表のいずれを希望するか。「いずれでもよい」，あるいは，「口頭発表を希望するがポスターでもよい」（またはその逆）という場合はそのことを明記
  - 連絡先（E-mail アドレス，緊急時に連絡が付きやすい電話番号）
  - 応募者自身の学会発表・論文等（既公開または近日中に公開予定のもの）で，今回応募する発表と内容的に一部重複するものがある場合は，当該発表・論文等の公開先が確認できる書誌情報を示すとともに，今回の発表との違い，および，今回の発表で初めて示される新知見が何かを明確に記載する。そのような論文・発表がない場合は「重複発表・論文なし」と記載する。  
(3)以下の項目を，A4 版 2 枚以内（1 段組），かつ総字数 3,000 字<sup>1</sup>以内（要旨全体を英語で作成する場合は総語数 1,600 語<sup>2</sup>以内）という形式で，MS-Word 文書（拡張子：.docx）として記載し，ファイル名を，題目冒頭の 7 文字+拡張子とし（上記の例では「漢字能力発達の.docx」），メールに添付する。
  - ・ 発表題目
  - ・ 要旨（①問題の所在，②先行研究との関連，③調査・分析方法，④結果，結論，⑤引用文献一覧等を含むもの。図表の挿入も可）なお，応募者の名前を伏せて査読を行う必要があるため，ファイルの「プロパティ」の原稿作成者名を，投稿者の責任において確実に消去しておくこと（「プロパティ」の「ファイルの概要」タブの作成者欄を空欄にする）。要旨が指示に沿った形で送られてきていない場合，再提出を求めるか，不受理となる場合がある。
9. 提出先・問い合わせ先： JASLA 大会運営委員長 義永美央子 宛  
E-mail: jasla.taikai.2022.2023[a]gmail.com （[a]を@に変えてください）
  - ・ メールでの受付後，受付確認のメールをお送りします。もし一両日中に返信が届かない場合は，再度連絡してください。

<sup>1</sup> MS-Word の文字カウントの機能を用い，「文字数（スペースを除く）」で 3,000 字以内とする。

<sup>2</sup> こちらは「単語数」で 1,600 語以内とする。日本語と英語でカウント単位が異なることに留意。

## 応募の際の注意点

- ・ 8. 応募方法(3)の「・要旨」のところに記載されている①～⑤の項目すべてを十分に書いてください。要旨作成の際には、下に書かれている「査読の7つの観点」を参考にしてください。
- ・ 審査は覆面審査で、1つの応募要旨を複数名（昨年度は5名）の査読委員が審査します。ですから、仮にだれか1名が特別厳しく評価したとしても、それだけで不採択になることはありません。
- ・ プログラム編成の関係上、口頭発表には発表可能数の上限がありますが、ポスター発表についてはその上限設定があまり厳しくありません。「口頭発表希望」とした場合、内容的には一定の水準に達していても、残念ながら不採択となる場合もあります。発表を強く希望される方は、「口頭発表を希望（ポスター発表でも可）」というような形で応募されるのも1つの方法です。しかしこのことは、単に両者の発表形態の違いを反映したものにはすぎず、ポスター発表より口頭発表のほうが業績としてより価値がある、ということの意味するわけではありません。ご自分の研究内容に対し、どのような形でのフィードバックが得たいかを考え、発表形態を選択してください。
- ・ ここ数年、「二重投稿」が疑われるという理由で応募が不受理となるケースが少なからずあります。ここでいう「二重投稿」には、まったく同じ研究内容で複数の学会等に応募することだけでなく、「別媒体で発表した（発表予定の）本人の研究とかなりの部分が共通していて、新しい知見といえる部分のごくわずかしかない」というようなケースも含まれます。もちろん、「過去のご自分の研究に立脚し、それをさらに発展させて発表したい」ということはあるかもしれません。その場合、「新しく得られた知見」を伝えることが発表の主目的となっていると認められるならば、発表は受理される可能性があります（その際、既公開の発表・論文は応募要旨内で先行研究として言及していただくとともに、今回の発表での新知見が何であるかを、応募時に明記していただくこととしました）。ただし、今回の発表での新知見を明記していただいたとしても、応募要旨のうち過去の研究内容の再掲が大半を占めているようなもの、新規の知見が既公開の知見とどう違うのかが明確でないと判断されるようなものについては、改めて説明を求め、場合によっては受理されないこともあり得ます。この点十分注意してください。

## 査読の7つの観点—査読者はここを見ている！

- (a) 第二言語としての日本語の習得に関連したテーマか
- (b) 第二言語習得研究に貢献しうる発表か
- (c) 研究の目的が明示的かつ妥当に述べられているか
- (d) 先行研究を踏まえ、研究史上の位置づけがなされているか
- (e) 研究目的に照らして研究方法は妥当か
- (f) 結果は明確に述べられているか
- (g) 議論（結論）は、目的・方法・結果に照らして妥当なものか